

## 報告書抄録

ふりがな	あいだにくまはらいせき いち							
書名	相谷熊原遺跡 I							
シリーズ名	農地環境整備事業関係遺跡発掘調査報告書1							
編著者名	松室孝樹・重田 勉・早瀬亮介							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	公益財団法人滋賀県文化財保護協会						
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号	滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2						
発行年月日	平成26年(2014年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
あいだにくまはらいせき 相谷熊原遺跡	しがけん 滋賀県 ひしおうみし 東近江市 えいげんじ 永源寺 あいだにちよう 相谷町	205	140	35° 04' 30"	136° 19' 00"	20090413 ~ 20100331 20100405 ~ 20101222	2,405㎡	農地環境 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
相谷熊原遺跡	集落	縄文時代 (草創期~晩期)		竪穴建物、集石・ 配石遺構、落とし穴等		土偶・縄文土器・ 石器		土偶は 国内最古級
		弥生時代~中世		竪穴建物、土坑、 カマド状遺構		弥生土器・須恵器・ 土師器		
要約	<p>相谷熊原遺跡は今回の調査によって明らかとなった、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。今回報告する4調査区のうちA区では、遺跡の南西端に相当するA1区を中心として、縄文土器・石器が出土した。特筆すべき遺構として、土坑墓・集石遺構・配石遺構等を検出したが、形態的には縄文時代に帰属する可能性は高いものの詳細は不明である。</p> <p>D1区・E2~E4区で検出された竪穴建物は、径7~8m、深度約1mを測り、規模としては当該期における全国最大級の規模を有するものであった。また、これらは一定の時間幅のなかで存在していたが、出土遺物の検討から判明した事項として、ほぼ同一の遺物組成を示すこと、土器の型式変化もほとんど認められないことから、竪穴建物は複数棟が同時併存していた可能性もある。また、このうち1棟(竪穴建物D1-086)の埋土中からは、国内最古級となる土偶が出土した。縄文草創期(約13,000年前)の土偶は、日本国内では2遺跡3例目となり(残る2例は三重県粥見井尻遺跡から出土)、滋賀県内はもとより全国的に見ても貴重な出土例となった。</p> <p>弥生時代以降の遺物は全体的に少ないが、遺構に伴うものとしては、E1区で検出された竪穴建物遺構等が挙げられる。これらの遺構から出土した土器は概ね弥生時代中期前半に帰属するものであり、縄文時代以降、当該期までは活動の痕跡が判明したが、続く古墳時代以降になると不明瞭になる。</p> <p>中世土器の出土も認められたが、遺構に伴うものは少なく、また当該期の明瞭な遺構の検出事例は少なく、現時点では不明な点が多い。</p>							